

# ティーチング・ポートフォリオ

大学名 人間総合科学大学

所 属 人間科学部

名 前 山舘 周恒

作成日 2023年9月30日

### 1. 責務（何を行っているか、何を果たしているか）

臨床検査学は疾病診断や治療効果にとどまらず幅広い分野に応用され、科学的に生体成分の変化を測定する方法として利用されていることを理解して頂きます。授業では、初歩的な内容のテキスト・プリントおよび動画を用いた授業をおこなっています。

心身健康科学では、医療従事者も多く、将来、医療関係の職場や企業の健康管理業務あるいは養護教員を目指す学生も在籍していることから医療に特化した臨床検査学を概論的に取り上げて実務的な解説を心がけています。ヘルスフードサイエンス学科においては「健康食品評価科学」として生体試料の分析法とその測定値の評価法の基礎的な解説を行っています。さらに関連分野の資格を紹介し、その取得に必要な知識を授業に組み入れています。

### 2. 理念（教育に対する考え方）

本学の教育研究上の目的—よりよく生きるための知恵（Knowledge for well-being）の創出—に沿って、臨床検査の職務とは異なる分野に進む学生が臨床検査学を理解して将来それを自身の職務に利用することを念頭にした授業を心がけています。学生が血液中のタンパク質、非タンパク性窒素化合物、脂質、酵素、電解質、ホルモン、腫瘍マーカーなどの分析が幅広い分野において重要な役割を果たしていることを知り、実務的な要素の高い科目として興味を持つよう授業では実例を多く紹介し、分析法の説明では動画を活用した授業を行っています。

### 3. 方法（教育方法において大切にしていること）

本学のカリキュラムポリシーおよびディプロマ・ポリシーを念頭にしたシラバスを作成しています。近年は記憶や心理面に深く関わっている新たな生体成分の発見もあり、それに関連する分析の必要度が増していることもありヒト成分に限らず動植物も含めてその関連物質や遺伝子の測定の必要性が増しています。専門性を重視して難解な授業内容になることを避けるため、実例の紹介を通して初歩的基礎知識を解説するよう心がけています。ヘルスフードサイエンス学科学生には、近年製品化されている健康食品や飲料の評価に利用された成分の測定例を紹介し、それを通してより興味を深めてもらうべく動画や報文データを多く活用するよう心掛けています。

さらに、学科に関連する認定資格を紹介し、その取得に必要な知識を授業に盛り込むとともに、学生の将来の進路は多種多様であることから、学科に関連する職種を考慮して学生の声を参考に、自身の実務経験で得た事例の紹介を可能な限り増やしています。

#### 4. 成果（学生さんからの評価に対して、学生さんの学修成果について）

学生のアンケートによると、実際のデータや動画の活用は具体的で分かりやすいとの意見が寄せられています。しかし、理論的な内容の講義については“難解さ”を指摘する学生の声もあることから改善に取り組んでいます。その一環として、“基礎知識のミニテスト”を授業に取り入れています。これを実施することで、学生は復習のポイントが分かるとの意見があり、単位認定試験で成果にも表れています。

#### 5. 目標（教育活動の中短期目標と達成時期）

授業では、毎回一般目標（GIO）と行動目標(SBOs)を示して、授業後に SBOs は学生が自己チェックできるようにしています。

今後の目標として、毎回の授業の最初に“前回授業の要点”を示して重要事項を明確にします（2023年度後期より）。

\* 表紙を含め、全体として、3～10ページ程度とします。

#### 【添付資料】

\* TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙ください。  
(シラバス、開発教材、学生アンケート等、特に特徴的なものを列挙し、必要に応じて、すぐに確認できるようにしておきます。)